

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



櫻井 泉 水産部門（水産土木）／総合技術監理部門

勤務先：北海道立中央水産試験場 水産工学室

私は1965年に埼玉県で生まれました。海なし県出身の私が水産の仕事をしているわけですが、祖父が養鯉業を営んでいた関係で幼い頃から魚を飼うことには興味がありました。大学も水産増殖学科に進んだのは、このことが関係していたと思います。

1988年に大学を卒業後、北海道庁に採用となり、函館水産試験場室蘭支場勤務を経て、現在は中央水産試験場に所属しております。今年で勤続20年目となりました。

私の所属する水産工学室は、沿岸漁場整備や漁場環境評価といった水産土木に関する研究業務を所管しております。その中で、私はホッキガイ・アサリの漁場造成やホタテガイの養殖施設に関する研究を担当してきました。また、森・川・海の生態的つながりの評価といった新しい視点での研究にも参画しました。そして現在は、ニシン・ハタハタの産卵場整備に向けた藻場造成やアサリの増殖場整備に向けた干潟造成について研究を進めております。

水産土木の研究、とりわけ漁場分野においては、施設の安全性や安定性、耐久性の評価といった工学的なアプローチだけでなく、生物生産や環境配慮といった生物学的なアプローチが非常に重要となります。そういう意味で、現在の仕事は今や趣味となっている魚の飼育に通ずるものがあります。今後とも、安全かつ効率的で生産性が高く、環境にも優しい漁場施設の開発に向けて日々邁進していきたいと考えております。



次号は、土井善和さん（水産部門）



竹内 正志 上下水道部門（下水道計画）／総合技術監理部門

勤務先：北海道建設部建設管理局

今年の夏は、国内の最高気温記録が塗り替えられるほどの猛暑となりましたが、私が技術士第2次試験を受検した平成11年の夏もたいへん暑い夏でした。模範解答をただひたすら紙に書きながら覚えるというあのトレーニングを、自宅でクーラーのない環境の中、汗だくになってがんばった記憶が甦ってきます。

あれから8年が経過し、私も昨年50歳の節目を越したところ。折しも、団塊世代が第一線を退こうとしている時であります。私たち50歳前後の世代は団塊の世代を忠実かつ確実に支え、それが様々な成果につながってきたという思いがあります。団塊の世代が彼らの激しい競争の中で放つエネルギーが組織を活性化する力となり、私たちの世代がそれに触発され、両世代がうまく噛み合ったのでした。

さて、各種メディアで報じられるとおり、北海道の財政状態はたいへん厳しく、私たち技術部門の部署にも事業量の減少や技術職員の採用控え等の形で暗い影を落としています。組織のモチベーションを保つのが難しい状況にはありますが、この時こそ組織や個人の技術力向上に目を向ける良い機会であり、そのために指導的な役割を果たしていくのが、団塊の世代に続く私たち世代の務めと考えているところであります。そこで、とりあえず、周囲に技術士受検を呼びかけるところから始めている昨今の私です。



次号は、串橋正毅さん（建設部門）